

彙報

第二五回総会及び研究集会

木簡学会第二五回総会及び研究集会は、二〇〇三年二月六・七日、奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂において、一五一名の個人会員、三団体の団体会員、一名の海外会員の参加を得て開催された。会場には、興福寺一乗院跡出土木簡・石神遺跡出土木簡（以上、奈良文化財研究所）、藤原京跡左京一条四坊・二条四坊出土木簡（橿原市教育委員会）、酒船石遺跡出土木簡（明日香村教育委員会）、大古町遺跡出土木簡（丸森町教育委員会）が展示された。

◇二〇〇三年二月六日（土）（一三時～一七時）

第二五回総会（議長 佐竹昭氏）

佐藤宗諄会長による開会挨拶の後、以下の報告が行なわれた。

会務報告（渡辺晃宏委員）

会員の状況（個人会員三四名、海外会員三名、団体会員四団体の他、二〇〇四年度新入会員一六名）、会員サービス、二〇〇四年度研究集会の予告（中国簡牘研究について）、次回特別研究集会の予定（二〇〇六年・九州での開催）などについて報告があった。

編集報告（土橋誠委員）

『木簡研究』第二五号の編集経過について報告があり、頒価を五〇〇〇円にする旨の提案があった。また、第二六号の原稿募集について説明がなされた。

『日本古代木簡集成』編集報告（和田萃委員）

木簡学会創立二〇周年を記念して編集された『日本古代木簡集成』について、出版にいたるまでの経緯、内容の紹介があった。

会計・監査報告（山中敏史委員・綾村宏監事）

山中委員から二〇〇二年度会計（一般会計及び特別会計）の決算報告が行なわれ、綾村監事より会計業務が適正に行なわれている旨の監査報告があった。また、監査報告にあわせて、繰越金の基金への組み替え、会誌販売に努めるべきこと、会費滞納者数の減少に努めるべきこと、などについて綾村監事から申し入れがなされた。ついで山中委員より二〇〇四年度予算案の提示があった。

大和北道路問題に対する取り組みについての報告（渡辺晃宏委員）

大和北道路が平城宮跡の直下にトンネルで計画されている問題について、国土交通省が検討しているルート案の説明、それに反対するシンポジウムの開催状況など、問題の経過と現況について説明があった。ついで緊急アピール案の提示がなされ了承された。

以上の案件は、全て承認された。

研究集会

報告（司会 今泉隆雄委員）

中央アジア出土のチベット語木簡 武内紹人氏・館野和己氏
具注曆と木簡 竹内 亮氏

武内・館野両氏の報告は、チベット語木簡の資料的価値、所蔵・保管状況、形式分類、再利用の様相などを論じたものである。日本の木簡を考察する上でも、その持つ意義は大きいことが指摘された。竹内氏の報告は、石神遺跡出土の具注曆を記した木簡について、年代比定の根拠、書式や使用法について検討したものである。両報告の内容については本号に論文を頂戴できた。

◇二〇〇三年二月七日（日）（九時～一五時）
研究会

報告（司会 土橋誠委員）

二〇〇三年全国出土の木簡

石神遺跡第一五次調査出土の木簡

山本 崇氏
市 大樹氏

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区出土の木簡

藤沢 敦氏

藤原京跡左京一条四坊・二条四坊の調査出土の木簡

露口真広氏

山本氏の報告は、二〇〇三年に全国七五遺跡より出土した木簡の概要報告であり、あわせて二〇〇二年以前に出土した木簡のうち本会が把握していなかった一三二件について、集成の経緯に関する説明がなされた。前者については本号にそのほとんどの報文を掲載でき、後者については本号を含め徐々に掲載していく予定である。引

き続いて、市氏より石神遺跡出土の七世紀中頃から後半にかけての木簡群について、藤沢氏より近世木簡が大量に出土した仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区の調査について、露口氏より木簡とともに中ッ道を検出した藤原京跡左京一条四坊・二条四坊の調査について、それぞれ成果に関する概要の報告があった。

討論（司会 寺崎保広委員）

討論に先立ち、「大和北道路有識者委員会」のメンバーであった坪井清足氏より、推奨案提示の経緯についての説明があった。また、竹内亮氏より石神遺跡から出土した定規木簡についての追加報告がなされた。これに引き続いて活発な討論を行なった。

最後に鎌田元一副会長の挨拶により閉会した。

委員会報告

◇二〇〇三年二月六日（土）一〇時半～一二時

於奈良文化財研究所

総会に先立ち、会務、第二五回総会・研究会の運営、会誌第二五号の編集経過と頒布価格、二〇〇四年度予算案、大和北道路問題に関する緊急アピール案などについて報告があり、審議の上承認された。また、次年度の研究会の予定、海外会員の会費、本会未掌握の木簡の会誌への反映方法などについても討議した。

◇二〇〇四年六月九日（水）一四時～一七時

於奈良文化財研究所

1 会務報告。常任委員の委嘱、会員の異動、常任委員会・幹事会の開催状況について報告があった。2 入会審査。一名の新入会申込者について審査を行なった。3 会計・監査報告。二〇〇三年度決算報告及び監査報告があり、承認された。4 『全国木簡出土遺跡・報告書総覧』について。奈良文化財研究所と協力して刊行した『全国木簡出土遺跡・報告書総覧』を会員及び執筆者に配布したことに ついて報告があった。5 会誌執筆意向アンケートの実施について。前項『木簡総覧』の作成に際して見つかった本会未掌握の木簡について、会誌への執筆の意向を問うアンケートを実施したこと、及びその回収状況について報告がなされた。6 会誌第二六号の編集経過。編集を館野和己委員が担当すること、及び編集状況について報告があった。7 第二六回総会・研究集会について。内容についての検討を行なった。8 組織改革について。事務運営業務を機能的なものとするための組織改革について討議を行なった。その結果、常任委員会に一任することで了承された。9 その他。二〇〇六年の九州特別研究集会、京奈和道平城宮跡地下トンネル問題の現況について報告があり、会誌販売の促進についても議論した。

◇二〇〇四年一月四日(木) 一四時～一七時

於奈良文化財研究所

1 会務報告。会員の異動、常任委員会・幹事会の開催状況について報告があった。2 入会審査。一名(うち海外会員一名)の新入会

申込者について審査を行ない、全員の入会が承認された。3 会計報告。二〇〇四年度会計中間報告、二〇〇四年度下半期収支予定の報告及び二〇〇五年度予算案の提案があり、一部の修正を経て承認された。4 第二六回総会・研究集会について、日程案について検討した。5 会誌未掲載遺跡執筆意向アンケートの集計結果と対応について、二八号までの執筆承諾の回答が寄せられていること、二六号程度のポリウムムの会誌を発行することで処理していけるとの見通しが説明された。6 会誌第二六号の編集経過。7 組織改革とそれに伴う会則改正案について検討した。8 次期役員候補について議論した。9 その他。二〇〇六年の九州特別研究集会の準備をはじめること、雑誌『日本歴史』への広告掲載について報告があった。

(吉江 崇)